

ここに、がんばる人と、それをあたたかく支える人がいる

# Live-rally 5

## ライブラリー

\*タイトルのlive-rallyは造語です。live=今を rally=やりとりするという意味と、ライブラリー(図書館)で本を閲覧するように、働く障害者の今を知っていただきたい、という願いを込めたものです。



## 会社のため、何よりも自分のためにも 「長く勤めてもらいたい」

玉の肌石鹸は、今年111年目。創業は明治25年という長い歴史を誇る。社員は全部で150名ほどおり、障害者の方は、そのうち4名。14年前から働きはじめた方は、66歳のいまま現役で、新しい方でも4年目を迎えるという。ひたむきな彼らの仕事ぶりを追ってみた。

## 玉の肌石鹸株式会社

### 【概要】

業種:石鹸製造業  
創業:明治25年  
従業員数:正社員61人。パートタイマー5人

### 【障害者の雇用人数】

知的障害者:4人(うち重度障害者1人)

### 【障害者の雇用状況】

嘱託員:4人 勤務時間:1日8時間・週休2日制

### 【知的障害者の作業内容】

化粧品の包装及びシール貼り・箱詰め及び製品積み込み

## 最初の雇用結びついたきっかけは、工場見学

玉の肌石鹸は、元来地元重視型の企業。雇用の発端は、地元の墨田養護学校が社会学習の一環として、工場見学に訪れたことがきっかけという。墨田養護学校の先生から、「ぜひうちの卒業生を雇用して欲しい」と依頼があり、地元で貢献したいという企業姿勢が、その要望をかなえる形となった。総務部労務課の高井さんは、「はじめの実習

生は、非常に真剣に現場実習を受けたので、これなら採用してもいいと言う話になり、以後、養護学校の紹介で採用しています。」と話してくれた。

養護学校からは年に1回、卒業を控えた在校生が工場見学に来られ、自分たちの先輩が働いている姿を真剣に見入っているということだ。

## 仕事を覚えるまで、ひとつひとつ積み上げていく

「当初は障害者雇用のノウハウがなかったこともあり、試行錯誤を繰り返しました。3名いる女性の方々は、馴染んでくるにつれ、本人のやる気も出てきて、勤務評価も入社当時と今では雲泥の差です。ひとつひとつ、ごく単純な仕事から始めて、あまり早い段階でレベルアップはしないが、3ヶ月程度のスパンで次第にいろんな種類の仕事をこなせるようになり、健常者の方とほとんど変わら

ないところまで来ているようだ。「時間的にもフルタイムで一般社員と変わりません。さらに2~3年経つと、ある意味で『健常者に負けたくない。付いていこう』という気持ちが出てくる。とにかくレベルアップに対する意欲がすごいし、努力を惜しまない。長い目でゆっくりとした気持ちで接することが必要でしょうね。」と語ってくれた。



### 66歳男性

勤続年数：20年  
入社経緯：病院の紹介  
仕事の内容：箱詰め及び製品の積込  
休日の過ごし方：洗濯・掃除・テレビを見る。映画を見に行く。  
趣味・やりたいこと：神保町の古本屋を見に行きたい。運動や、生け花、漢字の勉強をしたい。  
玉の肌石鹸で楽しかったこと：仕事、社員旅行。

### 33歳女性

勤続年数：15年  
入社経緯：墨田養護学校の紹介 実習(3ヶ月)後入社  
仕事の内容：化粧品の包装及びシール貼り  
休日の過ごし方：妹の子供の子守。買い物が好きで、トイザラスや、錦糸町に母と出かける。  
趣味・やりたいこと：花びらずで犬やお花を作る。折り紙でくす玉を折る。  
妹の子に、働いたお金でいろいろなものを買ってあげるのが楽しみ。  
玉の肌石鹸で楽しかったこと：忘年会

### 24歳女性

勤続年数：10年  
入社経緯：堅川中学校の紹介 実習(3ヶ月)後入社  
仕事の内容：化粧品の包装及びシール貼り  
休日の過ごし方：家でんびりしたり、映画を見に行ったり、買い物したりします。  
趣味・やりたいこと：趣味は、映画鑑賞・音楽鑑賞。  
玉の肌石鹸で楽しかったこと：職場の人と仲良くおしゃべりすること。

### 22歳女性

勤続年数：4年  
入社経緯：墨田養護学校の紹介 実習(3ヶ月)後入社  
仕事の内容：石鹸の包装  
休日の過ごし方：映画鑑賞・音楽鑑賞。ピアノのレッスンや、季節ごとの旅行。  
趣味・やりたいこと：絵を描くこと  
玉の肌石鹸で楽しかったこと：社員旅行。

## 仕事を任せ、信頼することが大切

「私たちの場合は厳しいなかにも家庭的な雰囲気をお大切にした形でやっています。仕事もそうですが、やはり周りとの人間関係が重要です。特に彼らには人間関係が大事で、コミュニケーションをよくとらないといけません。しかし、そのなかで、「口は出さずにしばらく見守ること

が必要なんです」と言う。『仕事を任せる』という姿勢が大切なのだろう。もちろん、最初は間違っただけをやっても、その時には、「ここでは、こうするんだよ」と指導していく。手を貸したり、離れて見守ったり、その使い分けが長年培ってきたノウハウなのだろう。

## 「障害がある人とは気づかない」それも本人の努力

障害者の雇用ノウハウがあるこの会社では、彼らの障害に気が付かない人もいます。自力で通勤し、働く。ただそれだけのことだが、その何でもない日常の中には、彼ら

の計り知れない努力があるのだろう。「彼らは、まじめで忍耐力があるだけでなく、心優しい。とにかく努力家です。」と、高井さんは優しい笑顔で話す。

## できるだけ長く努めてもらいたい

短期間ではなく、できるだけ長い間勤めていただくのが私どもの考えです。ただし、ある程度年齢がいくと、どうしても体力は低下する。その辺に気を付け、とにかく体の調子の悪いときは休んでもいいと話しているのですが、それでも休みはほとんどとらない。66歳の方は、かれこ

れ勤続20年目。非常に元気で、体調と相談しながら仕事をされています。」70歳までは一応継続雇用を考えているのだそう。「障害者の方で勤続20年を超えるのがひとつの目標だったんです。これを目標に他の3人の女性にも仲良く20年を超えていただきたい」。

## 社員旅行などのイベントも、一緒に基本

仕事だけではなく、忘年会も旅行などの福利厚生も、すべて一般社員と同じように行っている。「会社の行事には、ほとんど参加しています。4人のなかで重度の障害がある方は、一緒に行きたいという気持ちが非常に強く、お母さんに同伴してもらいました。」昨年は110周年で、

なんとハワイ旅行へ。コミュニケーションの場は、会社だけではなく、働くこと、そして、遊ぶことを通じてつくられる和。ここ玉の肌石鹸株式会社では、長い時間をかけてそれが確かなカタチになっているのを感じる。

真心込めて包装された製品群。



総務部労務課 課長:高井 聡さん

